



それは、たとえば、  
引越してきた恋人が  
いつまで経っても  
荷解きをしないで  
いるような。

そんな感じに  
似ているよ。

牛島光太郎

一枚物語 | 同意のない出会い

ちぐはぐな日々のはなし

Gallery P A R C

GRAND MARBLE



Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]では、2022年5月3日[火・祝]から29日[日]まで、牛島光太郎による個展「一枚物語 | 同意のない出会い」を開催いたします。

牛島光太郎(1978年・福岡県生まれ)は、一見すると無関係のようにも思える「もの と ことば」を組み合わせることで、そこに「ものがたりの気配や予感“のようなもの”」をつくりだす作品展開を続けてきました。

牛島の代表作ともいえる『scene』シリーズ(2003～)では、日常生活の中でとりとめもなく浮かんでくる場面や風景、出来事などを切り取り、それらを「もの と ことば」でつなげることで、展開や結末などが一切ない「シーン」をつくりだすことに取り組んでいます。また、刺繍された文字によるボリュームのある「ことば」と「もの」の組み合わせによる『意図的な偶然 / intentional accident』シリーズ(2008～)は、一見すると無関係な距離にも見えるそれらが、いつしか関係するような予感を鑑賞者に抱かせます。

ギャラリー・パルクでは2014年以来、8年ぶりとなる牛島光太郎の個展「一枚物語 | 同意のない出会い」は、牛島が「えと ことば」をクロッキー帳の上に組み合わせた作品《一枚物語》と、「もの と ことば」を組み合わせた新作となる《同意のない出会い》を発表する機会となります。

《一枚物語》は牛島が日常で気になっていた絵と言葉を用い、それらを組み合わせることで画面に絶妙な関係をつくりだすもので、一日一枚、6年以上に渡って描き溜められた作品は、書籍『一枚物語』(アリエスブックス刊/2020年/192頁)に纏められて出版されました。このシリーズについて牛島は、「『イメージ』と『テキスト』が説明し合わないような作品を描き始めました。描き始めると、『イメージ』と『テキスト』が適切に説明し合わない関係をつくるのが、簡単ではないことが分かりました。相性の悪い2人の人間に、居心地の良い親密な空間を見繕うような繊細な作業です。制作にあたり、新聞や雑誌、映画やニュースなどで見聞きした場面や、日常生活で居合わせた場面をベースにしました。『一枚物語』あとがきより」と語ります。なるほど、牛島によって描かれた「えと ことば」は、一見するとどこか「噛み合った物語」、あるいはどこか「ずれている物語」の一場面のような印象を持ちます。しかし、不思議なことに目の前のその場面(小さな物語)の“前後”を想像してみようとする、なぜか全体(大きな物語)を掴まえることができなくなります。つまり、画面の上には確かに物語を発見するものの、それが「一枚」の中で完結しているかのような印象を持ちます。

本展は、この不思議な感覚を覚える『一枚物語』の原画を一堂に展示するものです。鑑賞者の皆様には「たくさん」の「一枚一枚」を見るうちに、牛島が描き出す「宙ぶらりん」の中から、物語を探し、掴もうと身を振るようなムズムズを体験いただけるのではないのでしょうか。また、本展では「もの と ことば」を組み合わせた過去作品「意図的な偶然」・「組み合わせの方法」に加え、牛島の新作インスタレーション《同意のない出会い》を合わせて展開させます。

「もの と ことば」、「えと ことば」、「なにか と なにか」の関係をつくり出すことで、そこに生じる(想像する)物語のサイズや手触り、匂いといった細部をつくりだす牛島作品に通底する魅力をお楽しみいただければ幸いです。

本当にバカげた日々だ、たね。  
私たちは、あの頃を、「ナホリタン



デイズ」って  
ロクんでいるわ。

展覧会名 一枚物語 | 同意のない出会い

出展作家 牛島 光太郎 Ushijima Koutarou

会 期 2022年 5月 3日[火・祝] — 29日[日] 13:00~19:00 水・木休廊  
※4日[水・祝]・5日[木・祝]は開廊 / 5月7日[土]のみ18:00で閉廊

入 場 無料

関連企画 **\*クロストーク イベント**  
**「『一枚物語』とその周辺のことについて」**

牛島光太郎(美術家)×目黒実(財団法人子ども未来研究センター代表理事)×山下麻里(アリエスブックス発行人)  
5月7日[土] 18:30~20:00 参加料=800円(「一枚物語」5枚組ポストカードつき)

牛島光太郎・『一枚物語』の出版に深い関わりを持つ目黒実氏・山下麻里氏をお招きし、作品・作家との出会いや書籍化にまつわるお話を中心に、「一枚物語」の魅力についてクロストークします。\*予約不要

\*この他にも、5月15日[日]に牛島光太郎によるワークショップ「知らない誰かのつくり話」や、自作の解説を交えたギャラリートークの開催を予定しております。  
内容や参加方法などの詳細はギャラリー・パルクHPでご確認ください。

主 催 ギャラリー・パルク

会 場 Gallery PARC[グランマーブル ギャラリー・パルク]

問い合わせ **移転により住所変更しました** 〒602-8242 京都府京都市上京区皂莢町287 堀川新文化ビルディング 2階 **MAP**

TEL 075-334-5085 (T) 075-334-5360 (F)

MAIL info@galleryparc.com HP www.galleryparc.com

アクセス ○地下鉄烏丸線「丸太町」・「今出川」駅より徒歩約20分 ○地下鉄東西線「二条城前」駅より徒歩約18分 ○京都市バス 9番・50番(JR京都駅から約22分)・12番(阪急烏丸駅から約15分)・67番(阪急大宮駅から約12分)系統「堀川中立売」バス停下車徒歩1分 ○駐輪場・駐車場(3台) 有 ※満車の場合は近隣のコインパーキングをご利用ください。

【展覧会について:牛島光太郎】

2020年に福岡市の出版社アリエスブックスから著書「一枚物語 ちぐはぐな日々のはなし」が出版されました。2013年頃から取り組んでいる平面作品『一枚物語』が200点ほど収録されています。

『一枚物語』は、数年前、僕が何もつくる気になれなかった時期に取り組み始めた連作です。

約13センチ(縦)×約18センチ(横)のクリームコットン紙に色ペンで描かれた絵と言葉で構成されていますが、漫画や雑誌などと違い、「絵」と「言葉」は説明し合わない関係にあります。

この作品を鑑賞するために、絵と言葉の間にある文脈のようなものを想像しなければなりません。この作業は、鑑賞者の方々のこれまでの経験や記憶、あるいは、その日の心持ちなどによって行われるものだと思います。

『一枚物語』を描き始めてから約6年後、アリエスブックスの目黒さんと山下さんから連絡がありました。2人は「一枚物語を本にしよう」と言ってくれました。

出版に際して、各地で原画展を開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の影響で延期や中止が相次ぎました。2022年4月、堀川新文化ビルディングに新しい展示スペースをスタートさせたGallery PARCで原画展を開催できることとなりました。

この展覧会では、『一枚物語』の原画を中心に、新作『同意のない出会い』の展示も行います。

【関連企画】

クロストーク イベント

「『一枚物語』とその周辺のことについて」

牛島光太郎(美術家)×目黒実(財団法人子ども未来研究センター代表理事)×山下麻里(アリエスブックス発行人)

5月7日[土] 18:30~20:00

参加料=800円(「一枚物語」5枚組ポストカードつき)

\*予約不要

牛島光太郎・『一枚物語』の出版に深い関わりを持つ目黒実氏・山下麻里氏をお招きし、作品・作家との出会いや書籍化にまつわるお話を中心に、「一枚物語」の魅力についてクロストークします。

牛島光太郎 / Koutarou Ushijima

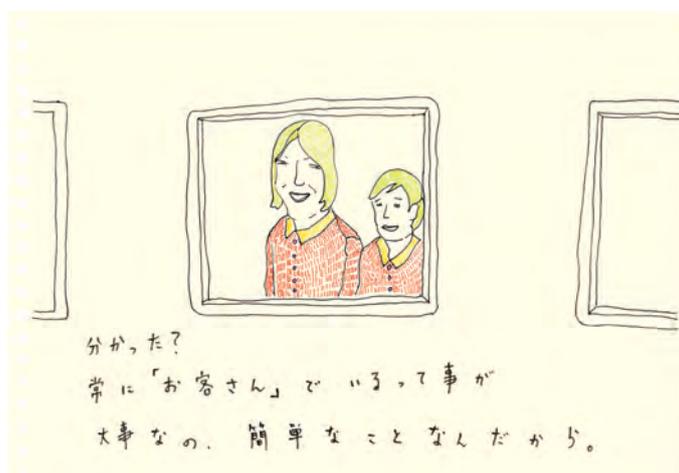
美術家 1978年福岡県生まれ。言葉を用いた作品を制作。日本での活動に加えて、ドイツ、台湾、中国、ニューカレドニアなどで作品を発表。関西国際空港や百貨店の吹き抜け空間・ショーウィンドウなど公共空間への大規模な作品設置の他、里山や市街地でのアートプロジェクトを実施。個展、グループ展、多数。2017年より、松山市に在住。

目黒実 / Minoru Meguro

財団法人子ども未来研究センター代表理事 九州大学、京都芸術大学の教授を歴任。日本初のチルドレンズ・ミュージアムを、福岡県伊達市を始め全国でプロデュース。近年では、絵本カーニバル、物語スコーレに力を入れている。編・著書に絵本『鳥たちは空を飛ぶ』、『祈る子どもたち』、寺山修司・宇野亜喜良との『五月よ 僕の少年よ さようなら』(アリエスブックス)などがある。

山下麻里 / Mari Yamashita

アリエスブックス発行人 九州大学大学院芸術工学府修了。2009年、目黒実と合同会社hactを設立。「子ども」や「本」をテーマに展示・イベントの企画デザインを行う。福岡市で「生の松原子どもスクール」(現在は那珂川市に移転)を主宰、子どもたちにワークショップデザイナーとして携わる。2015年、アリエスブックスを設立、子どもの本の編集と装丁を行う。



[Artist Info]

牛島 光太郎 Ushijima Koutarou

<http://www.usujimakoutarou.com>

1978 年福岡県生まれ。2017 年より、松山市に在住。

言葉を用いた作品を制作。

日本での活動に加えて、ドイツ、台湾、中国、ニューカレドニアなどで作品を発表。関西国際空港や百貨店の吹き抜け空間やショーウィンドウなど公共空間への大規模な作品設置の他、里山や市街地でのアートプロジェクトを実施。個展、グループ展、多数。2020年4月に著書『一枚物語 ちぐはぐな日々のはなし』(アリエスブック)を出版。2020年8月に渋谷区宮下公園内ホテル「sequence MIYASHITA PARK」の客室(224室)に作品を設置。



意図的な偶然-5  
2008年 ブラウス、路上で拾ったボタン、布に刺繍

[C.V]

1978 福岡に生まれる

おもな展覧会

2022 個展「意図的な偶然」(PAAC / 愛媛)

2021 個展「シリーズ木霊I:牛島光太郎 -はなしのあとのはなし-」(紺屋 2023 401号室 / 福岡)

文字模似言葉(ボードレス・アートミュージアムNO-MA / 滋賀)

2019 個展「モノの居場所に言葉をおいたら、知らない場所までとんでいく」(3331 Arts Chiyoda / 東京)

まなざしのスキップ(札幌文化芸術交流センター SCARTS / 札幌)

2018 六本木アートナイト2018(六本木の店舗、郵便局などに作品展示 / 東京)

Directors' Selection - FOCUS(テツカヤマギャラリー / 大阪)

2017 アンキャッチャブル・ストーリー(瑞雲庵 / 京都)

2014 個展「sceneのつくり方」(Gallery PARC / 京都)

2012 個展「意図的な偶然」(LIXILギャラリー / 東京)

2010 個展「意図的な偶然」(三菱地所アルティウム / 福岡)

Project / 公共空間での作品設置

2019 「えひめさんさん物語」(アーティスト in ファクトリー / 愛媛)

2016 「里山を編む」(九州大学ソーシャルアートラボ / 福岡)

「HUB-IBARAKI ART」(茨木市クリエイティブセンター / 大阪)

2011 「おおさかカンヴァスプロジェクト」(関西国際空港 / 大阪)

レジデンス

2012 Guangzhou 53 ART MUSEUM(広州, 中国)

2010 The association La Nature de l'Art(ヌメア市, ニューカレドニア)

2008 關渡美術館 Kuandu Museum of Fine Arts(台北市, 台湾)

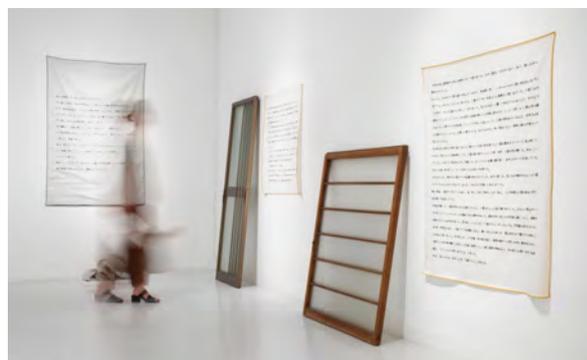
2007 Kuenstlerhaus Dortmund(ドルトムント市, ドイツ)

出版

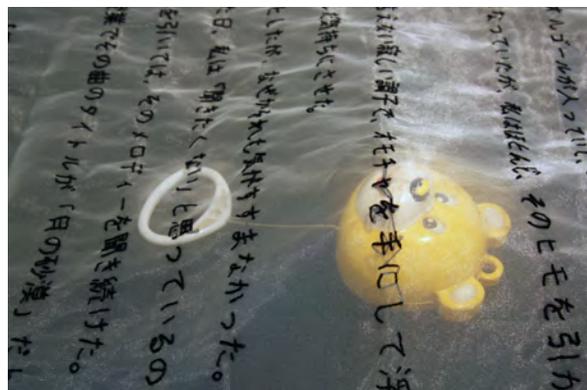
2020 「一枚物語 -ちぐはぐな日々のはなし-」(アリエスブックス刊)

コミッションワーク

2020 ホテル「sequence MIYASHITA PARK」の客室(224室)に作品設置  
(渋谷区宮下公園 / 東京)



意図的な偶然 展示風景(2014年、京都芸術センター)  
Tomas Svab



意図的な偶然-9  
2009年 オモチャ、オーガージーに刺繍



組み合わせの方法  
2019年 日用品、カッティングシートの文字  
Ujin Matsuo